

22nd International Symposium on Plant Lipids (2016) 参加報告

生命環境科学系修士課程 2 年 平嶋孝志（佐藤直樹研究室）

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2016年7月3–8日にドイツ・ゲッティンゲンにて開催された 22nd International Symposium on Plant Lipids に参加した。本集会は植物脂質を専門とする研究者が集まるシンポジウムであり、1974年より隔年で開催されている。

集会はゲオルク・アウグスト大学ゲッティンゲンが所有するセミナーハウスで行われた。5日間を通して口頭発表とポスター発表が行われ、バスでの小旅行やディナーなど交流を促す催しも充実していた。参加者は 200 人ほどで規模としては小さいが、そのぶん専門知識を共有する研究者同士の濃密な議論が交わされていた。



図 1 口頭発表会場



図 2 ゲッティンゲンの街並

私は、“Phosphatidylcholine biosynthetic pathways in four *Chlamydomonas* species”というタイトルで、緑藻クラミドモナスにおけるリン脂質ホスファチジルコリンの合成経路についてポスター発表を行った。関心を持ってくれた人は多くなかったものの、近いテーマで研究を行っている人たちから意見を聞くことができた。

植物脂質という分野は、グリセロ脂質・スフィンゴ脂質からワックスやイソプレノイドなど多様な物質を扱っており、それらの分子が関与する現象も代謝をはじめとして光合成・発生・環境応答など多岐にわたる。同じ「植物脂質」ではあっても、自分の研究テーマに直接関係しない領域については普段論文などで触れることがほとんどないため、今回は各領域の研究者から最先端の知見を得る貴重な機会であった。

国際集會に参加したのは今回が初めてであったが、有名な研究者と実際に話したり、海外の大学で研究している同年代の大学院生と交流したりといったことは、刺激になった。この経験を今後の研究活動に活かし、努力してゆきたいと思う。